

# リモートセンシング機器による収穫調査の 省力化と造林作業の軽労化に向けて

根釧西部森林管理署

## 目 標

先進的林業機械等を活用した林業における省力化と軽労化の普及を図る。

## 取 組 内 容

### 【OWLによる収穫調査の説明会と精度検証】

地上型3Dレーザスキャナ(OWL)について、北海道(振興局・森林室)の職員や管内の林業事業体及び森林組合の担当者を対象に機器の操作方法やデータ解析などについての現地検討会を開催しました。

職員の操作技術向上のため、資源活用第一課と連携して帯広地区の森林管理署職員を対象とした現地検討会を開催しました。

次年度の伐採予定(製品生産)箇所において調査を実行してそのデータと出材された数量等から精度の検証を行いました。



### 【リモコン式草刈機の現地検討会】

リモコン式草刈機(アグリア9500)が当署に導入されたことからOWLと合同での検討会を開催し、性能確認や意見交換を実施。

帯広地区の管理署職員を対象に取扱方法の説明会を開催。

作業道における除草や笹地での地表処理など下刈作業以外での実用性や工期調査を行うなど今後の活用方法について検討を行いました。



### 【新たな試験地の設定】

グラップルレーキによる大型機械地拵箇所において、新たな試験地を設定して苗木の生長や下層植生の回復状況、エゾシカによる被害調査等を実行し、下刈回数の削減など省力化や軽労化について関係機関と連携して地域での活用・普及を図る。

## 結 果

参加者が実際に操作してデータ解析等を体験したことで実用性が確認され、今後の地上型3Dレーザスキャナ活用による省力化への関心を高めることができました。

森林室より北海道森と緑の会が発行する情報誌「山づくり地域版」への原稿依頼があり、広範囲での普及啓発や行政活動について情報提供を行うことができました。

参加者が操作して性能を体験できたことにより関心が高まり、意見交換やアンケートの結果からも導入への意欲や改善点などについて確認することができました。

植付予定箇所でプロットを設定していたが植栽時期が春から秋へと変更となったため、予定していた生長調査等については次年度からの実施することとなりました。

## 今年度の総括 次年度の予定

今年度はOWL及びアグリアとも職員の操作技術の向上を図るとともに、現地検討会において民有林関係者が実際に操作して実用性が確認できたことによりリモートセンシング機器等への関心が高まりました。また、当署にアグリアが保管されているため、地域からの講習依頼への対応が容易となりました。

次年度は引き続きOWLにおける操作技術の向上と精度検証、アグリアにおいては下刈での工期調査や各種作業での性能確認等を行い、調査結果や活用方法について関係機関への情報提供など普及啓発を図ります。